

お知らせ

令和2年8月5日
水産庁

令和元年度の食料自給率(水産物)の概要

本日、令和元年度の食料自給率等が、大臣官房政策課食料安全保障室から公表されました(農林水産省ホームページ(URLはhttps://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/011_2.html)に掲載)。

このうち、水産物の自給率は以下のとおりです。

【重量ベースの自給率】

	平成29年度 (確定値)		平成30年度 (確定値)		令和元年度 (概算値)	増減
魚介類(食用)	56%	→	59%	→	56%	-3ポイント
魚介類(全体)	52%	→	55%	→	52%	-3ポイント
海藻類	69%	→	68%	→	65%	-3ポイント

【水産物自給率(重量ベース)の増減要因】

【魚介類(食用)】

- ・ 国内生産量は、スケトウダラやカタクチイワシ等の漁獲量は増加したが、サバ類、サンマ等が減少したため、18.6万トン減少(333.9万トン→315.3万トン)した。
- ・ 一方、国内消費仕向量は、国内生産量が減少したものの、輸入量の増加(312.2万トン→316.5万トン)及び輸出量の減少(78.7万トン→68.8万トン)等により、前年度に比べ0.1万トン増加(567.6万トン→567.7万トン)した。
- ・ その結果、自給率は下降した。

【海藻類】

- ・ 国内生産量は、総じて減少し、1.2万トン減少(9.4万トン→8.2万トン)した。
- ・ 国内消費仕向量も、前年度に比べ1.2万トン減少(13.8万トン→12.6万トン)したものの、国内生産量の減少率が大きかったことから、自給率も下降した。

<参考>

1. 自給率(重量ベース)の算出方法

国内生産量

国内消費仕向量 (= 国内生産量 + 輸入量 - 輸出量 ± 在庫増減)

2. 食用魚介類自給率(重量ベース)の要素ごとの変動要因

- ・国内生産量 前年比18.6万トン(6%)減少
生産量が増加したもの
スケトウダラ(2.6万トン増)、カタクチイワシ(2.2万トン増)、マイワシ(1.3万トン増)等
生産量が減少したもの
サバ類(9.7万トン減)、サンマ(8.3万トン減)、サケ類(3.1万トン減)等
- ・輸 入 量 前年比4.3万トン(1%)増加
輸入量が増加したもの
サバ類(3.4万トン増)、イワシ(1.2万トン増)等
- ・輸 出 量 前年比9.9万トン(13%)減少
輸出量が減少したもの
サバ類(8.0万トン減)、ホタテガイ(1.5万トン減)等
- ・国内消費仕向量 前年比0.1万トン(0%)増加

3. 海藻類自給率(重量ベース)の要素ごとの変動要因

- ・国内生産量 前年比1.2万トン(13%)減少
- ・国内消費仕向量 前年比1.2万トン(9%)減少

4. 水産物の自給率(重量ベース)の推移 (%)

	24年度	25	26	27	28	29	30	R元(概算)
魚介類(食用)	57	60	60	59	56	56	59	56
魚介類(全体)	52	55	55	55	53	52	55	52
海藻類	68	69	67	70	69	69	68	65

資料:「食料需給表」

担当:水産庁企画課 動向分析班
沼田、市川
代表 03-3502-8111(内線6578)
直通 03-6744-2344